泉科学技術振興財団　創立20周年記念

財団の運営と事業活動（平成11年～平成20年）

IZUMI SCIENCE AND TECHNOLOGY FOUNDATION

財団法人　泉科学技術振興財団

泉科学技術振興財団　創立20周年記念

財団の運営と事業活動（平成11年～平成20年）

IZUMI SCIENCE AND TECHNOLOGY FOUNDATION

財団法人　泉科学技術振興財団

目　　次

会長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

理事長挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

財団の設立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
設立趣旨
設立時の財団概要

現行財団概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
組織
事業内容

財団 20 年の歩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

役職者の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
（平成 11 年以降）

研究助成一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
（平成 11 年度～20 年度）

研究会リーダー助成一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
（平成 11 年度～20 年度）

国際研究集会出張参加助成一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
（平成 11 年度～15 年度）

歴年の申請件数及び採択件数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

創立 20 周年記念シンポジウム開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

編集後記

会　長（常務理事）　挨　拶

アイアンドエフ・ビルディング株式会社
代表取締役社長　　泉　祐彰

当財団は設立以来 20 年を経過いたしました。その間、財団の運営にご尽力頂いた多くの評議員・理事の方々に深甚の敬意を表します。そのご尽力のお蔭で化学の研究を志す若い研究者の間で当財団の存在が高く評価されているのではないかと考えております。
また、評議員・理事の陰に研究助成の内容を精査し、助成する研究課題を真摯に選び出す作業に携わる多くの選考委員会の先生方のご努力に対し心より感謝申し上げます。設立 10 周年の記念誌の挨拶にも記しました設立以来の泉科学技術振興財団運営が、その後の 10 年間におきましても当初の設立の趣旨どおりに運営され、現在この方面の研究者の間で当財団が高い評価を得ています事は当財団に関わる多くの人達のご尽力の賜であります。

さて、財団運営の基礎をなします財産の運営におきましてはこの 10 年来の低金利の時代におきまして困難を極めております。一部事業の縮小も余儀なくされましたが、それなりの工夫によりまして、その縮小も最小限に抑えられたのではないかと自負しております。しかし、世の中の経済情勢はさらに厳しく、低金利の時代はさらに続くものと予想され、その運用には十分な注意と努力が必要と思っております。そして、当財団の事業目的が十分に達成できますよう努力してまいります。

この度、明治 29 年以来の公益法人の法律が抜本的に改正され、新しい財団法人のあり方、特に公益財団法人のあり方が既にスタートしておりますが、当財団も新しい法律の下に、近い将来新しい財団に衣替えをしなければなりません。評議員・理事の役目も今までとはまったく異なった新しい概念になり、財団法人そのものの運営も今までとは異なった形になってまいります。新しい法律・運営のあり方の中で当財団が掲げた当初の理念を達成していくために当財団も脱皮しなければならない時代を迎えております。ここ数年の間に、新時代の財団運営に脱皮できるよう当財団の変革を進めてまいりたいと思っておりますが、当財団の目的は「高度機能性材料並びにこれに関連する科学技術分野」の研究課題に対する助成を行う事ですから、この理念を変える事は全く考えておりません。

今回、当財団が設立 20 周年を迎える事が出来ましたのを記念して 20 周年記念シンポジウムをこの 11 月 13 日に開催する事になりました。基調講演として、現在当財団の理事である独立行政法人理化学研究所次世代スーパーコンピュータ開発実施本部副本部長の茅幸二先生のお話をお聞きし、さらに別紙のとおり学会の第一線でご活躍の 4 人の先生方の講演を予定しております。この中の細野先生・原田先生・野崎先生は過去に当財団での研究助成を受けられた方々であります。この事は当財団にとりまして全く名誉な事であると考えています。今後も優秀な若い研究者に対し研究助成を行い、少しでも日本の科学技術の発展に寄与できるよう努力してまいります。これからも日本・世界がさらに大きく発展し人類が平和で豊かに暮らせるように、わずかながらお手伝いができます事を祈念してご挨拶とさせて頂きます。皆様方の今後のご支援とご指導をお願い申し上げます。

理　事　長　挨　拶

京都大学名誉教授　作花濟夫

このたび財団創立 20 周年を迎えることができました。財団の研究助成事業が順調な進展を見せている中でこの記念すべき年を迎えることができましたことは、創設時から評議員あるいは理事として勤めて参りました私を含め財団関係者にとりまして誠に嬉しいことでございます。お慶び申し上げますとともに、財団の活動をご支援下さいました方々に厚く御礼申し上げます。

本財団は、白水化学株式会社の創立 40 周年を記念して、泉正雄代表取締役会長によって創設されました。「これまで科学技術から受けた恩恵を社会に還元するため若い研究者の支援をしたい」という同氏の熱い思いが実ったものです。

そこで、先端科学技術の発展に欠くことのできない機能性材料の分野で将来大きく花開く可能性を秘めた独創的で萌芽的な研究の助成をするという目的を掲げて平成元年から助成活動が始まりました。泉正雄理事長、池田重良常務理事を始め顧問、理事、監事、評議員、選考委員の陣容で議論を重ねながら進められた初期の活動が規範となって、20 周年の今日までより高い目標に向かって進展し続けることができたと考えております。

助成事業で最も大切な個人の研究の助成ですが、助成対象者の選考にあたっては選考委員の先生方にたいへんお世話になりました。競争率が 10 倍にも達する注目すべき研究の計画を評価し、選考するのは容易なことではありません。選考委員の献身的なご努力によって毎年立派な研究が選ばれてきました。このことを如実に示しているのが助成を受けられた研究者の多くが、その後優れた研究成果を発表され、材料科学の各分野で指導的な研究者に成長されていることであります。このような研究助成で平成元年度から 20 年度までに合計で延べ 358 名の研究者に総計 3 億 8 千万円の助成金を差し上げることができました。

もう一つの助成事業として本財団は「研究会リーダー助成」を実施しています。これは機能性材料に関係のある特色ある題目を深く検討するワークショップ的な研究会を開くリーダーを援助する本財団独自の事業です。毎年 3～5 件の研究会のリーダーに 30～50 万円の助成を行ない、助成総額は平成 20 年までに総計 3 千 9 百万円となりました。

このような研究会のあり方を示す目的で本財団では創立初期に 2 回の泉フォーラムを開きました。第 1 回泉フォーラムは財団創設の披露も兼ね、砂本順三京都大学教授が研究会リーダーとなり、23 名の招待講演者を含む 90 名の参加者を得て、平成 2 年 11 月に開催されました。生体要素と各種材料のハイブリッド化という主題目について討論が行なわれ、ハイブリッド化という新しい概念を広めるのに役に立ちました。第 2 回泉フォーラムは平成 4 年 11 月に創立 3 周年を記念して開かれました。1 日目に相転移を主題とする講演会が開かれて、材料の開発に相転移が大きい役割を果していることが明らかにされました。2 日目には南努大阪府大教授が研究会リーダーとなり、「ゾルゲルの世界と材料科学」と題するワークショップが開かれました。300 人に達する参会者を得て熱心な討論が行なわれたことが記憶に強く残っています。

こうして財団の活動は順調に進展し、研究者の間で泉財団の名が広く知られるようになりました。そしてやがて創設 10 周年を迎えようとしていた平成 9 年 12 月に泉会長が逝去されまし

た。財団関係者にとりまして、痛恨の極みでありました。財団の発展した姿をご覧になっておられたことがせめてもの慰めであります。翌年の平成 10 年からは泉祐彰会長、鶴田禎二理事長、池田重良常務理事の体制で財団の運営と事業活動が進められました。財団創立 10 周年にあたりましては「泉科学技術振興財団 10 年の歩み」と 10 年間の研究助成者の報告書を集めた「研究助成事業報告集」を出版致しました。

記念文書が出版された平成 12 年頃から不景気が進み研究助成の抑制が必要な年もありましたが、泉祐彰会長、鶴田理事長と引き継がれた池中理事長、池田常務理事と引き継がれた金丸常務理事の御苦労により、平成 19 年度からは助成件数を 15 件に拡大し、研究会リーダー助成も復活することができました。

平成 7 年に科学技術基本法が成立して以来、科学研究に配分される競争的資金が増えましたが、一方、研究者が自発的な研究目的のために使える経常費が年々減少しています。このような時にこそ、財団の研究助成金が独創的萌芽的研究の発掘に大きい力となると信じて助成事業の進展に更なる努力を重ねる所存でございます。

関係の皆様のお力添え、ご鞭撻をお願い致しまして挨拶に代えさせていただきます。

財団の設立

設立趣旨

設立の経緯

財団法人　泉科学技術振興財団は、我が国の科学技術の基礎的研究の増強発展に寄与することを目的とする科学技術庁管轄の公益法人団体として設立され、現在は文部科学省の所管となっている。

今から 20 年前、白水化学工業株式会社（現在　ハクスイテック株式会社に改名）の創始者である故泉正雄氏は、多くの科学技術の成果の恩恵を受けてきたことに思いを致し、それによって得た利益を還元しようと考えて、白水化学工業株式会社創立 40 周年の記念事業として、『高度機能性材料およびこれに関する科学技術分野における研究およびそれに必要な国際交流への助成』を目的とする科学技術振興財団の設立を決意し、泉正雄氏個人と白水化学工業株式会社の寄付を基金として、昭和 63 年 12 月 15 日に科学技術庁の管轄のもとに本財団を設立した。設立の趣意は次の通りである。

設立趣意

我が国の科学技術は国際的水準に達し、分野によっては世界をリードするまでに至っている。その一方、科学技術の進歩は日本の経済の発展に大きな役割を果たしてきた。

しかしながら、我が国独自の独創的研究は、まだ十分満足すべき段階に至っていないと言われている。２１世紀に向かって、我が国の発展と国際社会への貢献を期するためには、ブレークスルーを生み出す、独自の科学技術を創造することが何よりも重要な課題である。

多くの科学技術は、用いる材料の機能によって一層優れた成果を発揮する場合が多い。言いかえれば、材料関連分野は多くの科学技術の基盤を形成する。一方、材料の種類と機能は極めて多岐にわたり、著しい発展を見せている。これらを先導する新しい機能性材料の創成は、様々な分野の研究成果を背景とし、長期にわたる研究開発を必要とするリスクの大きい課題であるために、その基盤の充実には産学官の連携を図りつつ積極的な対応を図る必要がある。

言うまでもなく、我が国は産学官を挙げて材料の研究開発に努力を傾け、大きい成果を得てきた。しかし、国際的水準に達した材料研究を更に発展させるためには、将来を展望した先見性と創造性の豊かな独自の萌芽的研究を援助・育成し、その成果を通じて国際交流を図り、我が国及び国際社会に貢献することが、我々に課された任務である。

白水化学工業株式会社は創立以来、材料の製造を中心として、新しい製品の開発に心血を注ぎ、大きな業績を挙げてきた。これは、我が国における多くの研究者の材料に関する基礎から応用までの研究の成果の賜物であり、これらの研究の恩恵を受けた者として、今こそその利益を社会に還元する時であり、またそうすることが大きな責務であるとの考えのもとに本財団の設立を企画した。

以上の主旨に基づき、白水化学工業株式会社の 40 周年の記念事業として、先見的かつ創造的な材料科学技術振興の一助となるべく「高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における研究及びそれに必要な国際交流への助成等」を目的とした財団法人　泉科学技術振興財団を設立し、材料関連分野に関する研究開発の振興を図り、もって社会経済の発展に寄与したい。

設立時の財団概要

設　立　年　月：昭和 63 年 12 月 15 日

所　　管　　課：科学技術庁研究開発局総合研究課材料開発推進室

代　表　者　：理事長　泉　正雄

所　在　地　：大阪市北区豊崎 3 丁目 9 番 7 号

設立基本財産：500,000,000 円

事業の目的　：高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における先見的かつ創造的な研究者への研究助成及び国際交流への助成等を行い、もって社会経済の発展に寄与することを目的とする。

事業内容　　：①研究に対する助成
②研究のための国際交流に対する助成
③すぐれた業績に対する助成
④科学技術の普及啓発
⑤その他必要な事項

現行財団概要（特定公益増進法人認定）

組　　織（平成２１年度）

（理事・監事）

役　職　名	氏　　名	役　　職
理　事　長	作花　濟夫	京都大学名誉教授
常務理事（会　長）	泉　　祐彰	アイアンドエフ・ビルディング（株）代表取締役社長
理　　事	井上　祥平	東京大学名誉教授
理　　事	茅　　幸二	（独）理化学研究所 次世代スーパーコンピュータ開発実施本部副本部長
理　　事	妹尾　　学	東京大学名誉教授
理　　事	高野　裕士	高野法律事務所所長・弁護士
理　　事	増本　　健	東北大学名誉教授･東北大学総長顧問･(財)電気磁気材料研究所理事長
理　　事	山本　雅英	京都大学名誉教授・立命館大学理工学部非常勤講師
監　　事	新川　大祐	公認会計士・税理士・北斗税理士法人 代表社員
監　　事	福里　　功	アイアンドエフ・ビルディング㈱顧問

（顧問）

役　職　名	氏　　名	役　　職
顧　　問	池田　重良	大阪大学名誉教授・立命館大学 SR センター顧問
顧　　問	池中　徳治	大阪大学名誉教授

（評議員）

役　職　名	氏　　名	役　　職
評 議 員	足立　裕彦	京都大学名誉教授・国際高等研究所フェロー
評 議 員	泉　　豊禄	ハクスイテック㈱代表取締役社長
評 議 員	小口　　醇	（元）科学技術庁金属材料技術研究所 科学研究官
評 議 員	小田　雅司	大阪大学名誉教授
評 議 員	加茂　睦和	（独）物質材料研究機構（前）理事
評 議 員	木村　茂行	（社）未踏科学技術協会 理事長
評 議 員	新原　晧一	大阪大学名誉教授・長岡技術科学大学学長

（選考委員）

役　職　名	氏　　名	役　　職
選考委員	赤池　敏宏	東京工業大学大学院生命理工学研究科教授
選考委員	足立　裕彦	京都大学名誉教授・国際高等研究所フェロー
選考委員	粟倉　泰弘	京都大学名誉教授
選考委員	新原　晧一	大阪大学名誉教授・長岡技術科学大学学長
選考委員	原田　　明	大阪大学大学院理学研究科教授
選考委員	前田　泰昭	大阪府立大学産学官連携機構 特認教授
選考委員	山本　雅英	京都大学名誉教授・立命館大学理工学部非常勤講師
選考委員	渡會　　仁	大阪大学大学院理学研究科教授

（事務局）

役　職　名	氏　　名
事務局長	先﨑　仁
職　　員	吉岡　敬子

住所：大阪市北区豊崎３丁目１０番２号　I&F 梅田１００４号 〒５３１－００７２
電話：０６－６３７３－１８１１
FAX：０６－６２９２－０８９１
URL　http：//www.izumi-zaidan.jp/　　e-mail：info@izumi-zaidan.jp

事業内容

■目的

本財団は、高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における先見的かつ創造的な研究者への研究助成及び国際交流への助成等を行うことにより、科学技術の振興を図り、もって社会・経済の発展に寄与することを目的としている。

■事業内容

本財団は、目的遂行のため次のような事業を行う。

（１）高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における研究に対する助成
（２）高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における研究のための国際交流等人材交流に対する助成
（３）高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野におけるすぐれた業績に対する表彰
（４）高度機能性材料及びこれに関連する科学技術の普及啓発
（５）その他本財団の目的を達成するための必要な事業

財団 20 年の歩み

（昭和 63 年～平成 10 年）※詳細は「泉科学技術振興財団 10 年の歩み」（既刊）参照

本財団は、昭和 63 年 12 月 15 日に設立された。翌年 1 月には、昭和天皇が崩御され、世界的な戦争に巻き込まれた激動の昭和の時代から平成へと元号が変わり、新しい時代の幕開けを予感させた。

第 1 回理事会は、財団設立認可後すぐの、昭和 63 年 12 月 21 日に大阪ロイヤルホテルで開催され、鶴田禎二氏が議長となり初代理事長に泉正雄氏、常務理事に池田重良氏が選出された。

また、梅沢邦臣氏、若槻哲雄氏、石川忠雄氏の顧問就任が承認され、これに引続き評議員並びに選考委員が選出された。これに加えて、事務局の組織並びに人事に関する事項が審議決定され、本財団は発足した。

さらに、財団運営を遂行するに際して、公益増進法人交付申請の件、財団諸規定制定についても審議した。

初年度事業実施に関しては、昭和 63 年 12 月 15 日から昭和 64 年 3 月 31 日までの期間を昭和 63 年度としたが、規定に基づき、それ以後毎年 4 月 1 日から翌年の 3 月 31 日までを各事業年度並びに会計年度とすることが承認された。

設立された当時の社会情勢は、科学技術重視の追い風もあって、極めて順調にスタートしたが、長期に亘っての安定した運営と活動を続けるためには、基本財産の充実が欠かせないとして、財団創設者の泉正雄氏並びに白水化学工業株式会社（現在のハクスイテック株式会社）から合せて 5 億円の寄附がなされ、これによって財団の基本財産は 10 億円となった。

本財団の事業は、その趣旨に掲げてある「我が国における『高度機能性材料及びこれに関する科学技術分野における研究並びにそれに必要な国際交流への助成』」に沿って、「研究助成」「研究会リーダー助成」「海外研究調査出張参加助成」「国際研究集会出張参加助成」の助成活動を実施した。

そのうち、「研究助成」については、大学またはそれに準ずる研究機関に属していて、高度の機能性材料の開発あるいはそれに関連する科学技術の開発を目指す創立 10 周年に当たる平成 10 年までに、助成件数は 212 件に達し、年間当たりの助成採択件数は 15～29 件であったが、年を追うごとに応募件数は増加した。

また、「研究会リーダー助成」については、高度機能性材料及びこれに関連する科学技術分野における国際的ワークショップ等のグループ研究会のリーダーに対して、研究会開催を支援することを目的として実施する助成制度であり、他に類を見ない研究支援制度である。

この中で、特に本財団が自ら主体となってワークショップを催し、リーダーを指名依頼して実施したのが、第 1 回泉フォーラム「生体要素と人工材料の超ハイブリット化」（平成 2 年 11 月 20 日～22 日）と第 2 回泉フォーラム「相転移の科学と先端材料科学技術」（平成 4 年 11 月）である。

「海外研究調査出張参加助成」については、国外の機関に短期間出張（3 ケ月以内）して、機能性材料科学に関係のある調査研究或いは共同研究を実施することを支援する制度であったが、国内研究の発展・充実に伴って応募者も減少してきたため、時代の変化に対応して、10 周

年を機に同制度を見直した。

「国際研究集会出張参加助成」については、国外で実施される機能性材料科学に関係ある国際会議、研究集会に参加して、座長等の役を務めたり、研究成果の発表をするために必要な旅費を助成する制度である。平成 10 年度までの助成者は総数 164 名である。

この 10 年間には、平成 4 年頃から日本経済は破綻し始め、いわゆるバブル崩壊を見せたことに伴い、本財団においても将来への不安感を強めた時期もあった。

そして、平成 9 年 12 月 27 日には創設者の泉正雄氏が逝去。遺族から 1 億 3,000 万円の寄附並びに他の方からの寄附があり、基本財産は 12 億円となった。

創立から平成 10 年までの 10 年間における助成事業活動は、4 事業部門で合計 422 件、助成金総額は 3 億 125 万円に上った。

（平成 11 年～平成 20 年）

いわゆるバブル崩壊後は運用金利が低下し、事業活動は縮小せざるを得なくなった。また、「国際研究集会出張参加助成」については、収入低下及び応募者の減少もあって、平成 16 年度から休止した。

さらに平成 18 年度においては、引き続き組織及び運営体制を強化し、運用面でも努力した結果、運用金利の低下状況が依然として続いたにも拘わらず、前年度同様の事業活動を推進した。ただし、「研究会リーダー助成」については平成 17 年度、平成 18 年度は休止し、「国際研究集会出張参加助成」も引き続き休止した。

この間、平成 15 年 7 月 15 日に成立した国立大学法人法は、同年 7 月 16 日に公布され、平成 16 年 4 月 1 日に施行された。これに伴い、89 の国立大学法人及び 4 つの大学共同利用機関法人が誕生し、わが国の国立大学等が新しい歴史のページを開いた。

今度の国立大学法人化は、これまでの国の行政組織の一部となっていた国立大学を独立した法人格とすることで、予算、組織等の規制を大幅に緩和した自立的な運営を確保させることや、民間的な発想のマネジメントの導入で資源を最大限に活用すること、学外者の参画による運営システム、非公務員型の弾力的な人事システムへの移行、第三者による事後評価の導入を目指したものである。

これに伴い、各大学等においては、学術研究の一層の活性化はもちろんのこと、教育機能の強化、産学連携、地域貢献活動の充実などが強く求められたのだ。

こうした大学側の大きな変革に関連して、各大学では、研究活動費を様々な助成機関に求める動きが目立ちはじめた。

本財団においても、その影響は少なくなく、平成 16 年度の研究助成申請数は、平成 15 年度の 120 件に対して 149 件と急増し、続く平成 17 年度も 147 件、平成 18 年度は 126 件、平成 19 年度は 104 件、平成 20 年度は 134 件と高い水準を維持している。

ただ、経済環境の変化や初期の目的がある程度達成されたこともあって、「海外研究調査出張参加助成」は平成 11 年度から、また、「国際研究集会出張参加助成」は平成 16 年度から活動を休止した。

さらに、「研究会リーダー助成」は、経済環境の悪化に伴い、平成 17 年度、平成 18 年度の

両年度は休止したが、平成 19 年度からの再開では申請件数が 1 件、平成 20 年度は 5 件となった。

平成 19 年度においては、アメリカで住宅バブルがはじけたことから、低所得者向け住宅ローンの返済が滞ったことに端を発した経済不安、いわゆるサブプライムローン問題を引き金として起こった世界的な金融危機と、依然として続く運用金利の低下が影響したが、運用面で努力した結果、前年より多く研究助成を行うとともに、休止していた「研究会リーダー助成」を再開した。ただし、「国際研究集会出張参加助成」と「海外研究調査出張参加助成」は引き続き休止した。

創立 20 周年を迎えた平成 20 年度は、前年来からのアメリカ発世界的な金融、経済不況が一層深刻さを増した。世界的な企業である米証券大手のリーマン・ブラザーズが、負債総額約 63 兆円を超え、史上最大の倒産となり経営破綻したショックが世界中を震撼とさせた。

ニューヨーク市場、東京市場、アジア市場、ヨーロッパ市場など世界中の株式市場は軒並み急落した。このため、日米欧の中央銀行は、アメリカの金融不安に伴う市場の動揺を抑えるため 23 兆円を超える資金を供給したが、これも焼け石に水となり、金融、経済不安に対する不信の連鎖は拡大するばかりとなった。

急拡大した金融派生商品（デリバティブ）が、信用デリバティブを拡大させ、深刻さを増長させたのだ。その結果、金融機関は企業への貸し渋りを強め、当然ながら企業や個人の家計にも大きな影響を与えて、経済はさらに冷やされた。

負の連鎖は、最早アメリカ一国に留まらず世界的に拡大して、これまで経済成長著しかったブラジル、ロシア、中国、インドなどの新興国経済にも波及し、そうした新興国向けに資源供給してきた資源国にも大きな影響を与えた。

「100 年に一度の金融・経済不況」とまで言われるようになった、世界的な大不況は、各国の対策も実を結ばず、一向に沈静化しない。そうした中、世界の消費国、アメリカではビッグスリーと呼ばれてきた、GM、フォード、クライスラーの大手自動車メーカーの経営危機が表面化して火に油を注いだ格好となった。

1 月には、アメリカで初の黒人大統領、民主党のオバマ氏が誕生し、世界中の耳目がオバマ大統領の手腕に注目したが、沈静化は進まず、世界中が手詰まり感を強めるばかりとなった。

そうした環境下にあって、本財団創立以来、過去、20 年間の研究助成事業は、申請件数 2,487 件、採択件数 358 件、研究会リーダー助成事業（平成 17 年、平成 18 年は休止）は、申請件数 90 件、採択件数 66 件、海外研究調査出張参加助成事業（平成 11 年から休止）は、申請件数 21 件、採択件数 8 件、国際研究集会出張参加助成事業（平成 16 年から休止）は、申請件数 390 件、採択件数 209 件の実績を数えた。

一方、国内に目を転じると、公益法人制度改革が平成 20 年 12 月 1 日からはじまった。平成 18 年 6 月に公布された公益法人制度の抜本的改革に関する 3 つの法律である「一般法人法」「公益認定法」「整備法」に基づき、110 年有余にわたって公益法人の根拠となってきた民法（明治 29 年公布、同 31 年施行）の公益法人に関する規定が役割を終えて、新しい法律に衣替えした。これに伴い既存の公益法人は、公益認定か一般認可を受けるまでは特例民法法人となり、本財団も特例財団法人となった。

これに沿って、今後、平成 25 年 11 月 30 日までの 5 年間のうちに、公益法人の認定申請か

または一般法人への認可申請かの選択を迫られることになった。

そのため、本財団においても、公益認定申請を目指しての対応を求められることになったが、その準備も現在行っているところである。

また、本財団の創立 20 周年記念の一環として、平成 20 年 12 月 17 日にホームページを開設し、本財団の概要や役員名簿、事業計画、収支予算、収支計算、財産目録、助成実績等の情報公開と申請手続き、報告書手続きの電子化に着手したほか、記念事業を推進するため、作花濟夫理事長、泉祐彰会長（理事）、金丸文一常務理事、小田雅司評議員、山本雅英評議員の５氏が委員となり 20 周年記念事業準備委員会を設置し、平成 20 年 7 月 28 日に第１回を、同年 9 月 16 日に第２回を、同年 11 月 28 日に第３回の委員会を開催して、記念事業案を検討した。

その結果、平成 21 年 11 月 13 日にメルパルク大阪（大阪市淀川区）において、「明日を拓く機能材料」を主題とした記念シンポジウムの開催と記念パーティの開催、創立 20 周年記念誌（A4 判）の発行を決めた。

記念シンポジウムの講師には、本財団理事の茅幸二氏（<独>理化学研究所次世代スーパーコンピュータ開発実施本部副本部長）、本財団選考委員の原田明氏（大阪大学大学院理学研究科教授）、平尾一之氏（京都大学大学院工学研究科教授）、細野秀雄氏（東京工業大学フロンティア研究センター＆応用セラミックス研究所教授）、野崎京子氏（東京大学大学院工学系研究科教授）の 5 氏が選ばれた。

そして、平成 21 年 11 月 13 日の当日は、本財団関係者はじめ、公益法人などの来賓者、一般参加者も含めて多数の方々が記念シンポジウムに出席され、時宜を得たそれぞれの講演者のお話に耳を傾ける予定である。

役職者の推移（平成 11 年以降）

1. ご逝去された方々

氏名	役　　職（就任時）	在任期間
梅澤　邦臣	(財)吉田科学技術財団理事長・ (財)原子力安全技術センター 理事長	＜顧　問＞　昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日 （平成 18 年　1 月 23 日　ご逝去）
石川　忠雄	(元)慶應義塾大学塾長	＜顧　問＞　昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日 （平成 19 年　9 月 25 日　ご逝去）
石原　健三	石原産業㈱取締役会長	＜理　事＞　昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 11 年　3 月 31 日 （平成 17 年　2 月 24 日　ご逝去）
黒田　晴雄	東京大学理学部教授	＜評議員＞　昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
	東京大学名誉教授	＜理　事＞　平成 15 年　4 月　1 日～ 平成 16 年　5 月　4 日 （ご逝去）
竹本　喜一	大阪大学工学部教授	＜評議員＞　昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
	大阪大学名誉教授・ 龍谷大学 REC フェロー	＜理　事＞　平成 15 年　4 月　1 日～ 平成 18 年　7 月　3 日 （ご逝去）
高松武一郎	京都大学名誉教授・ 関西大学工学部教授	＜理　事＞　平成　7 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日 （平成 19 年 10 月　6 日　ご逝去）
大室　　勝	大室税理士事務所所長	＜監　事＞　平成　5 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日 （平成 17 年　2 月 26 日　ご逝去）
田中　廣吉	(元)科学技術庁無機材質研究所 所長	＜評議員＞　昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 11 年　3 月 31 日 （平成 15 年　1 月　7 日　ご逝去）
金丸　文一	大阪大学名誉教授	＜理　事＞　平成 15 年　4 月　1 日～ 平成 17 年　3 月 31 日 ＜常務理事・選考委員長＞（平成 17 年 4 月 1 日～平成 21 年 7 月 13 日　ご逝去）

2. 退　任　役　員

理事会関係

＜顧　問＞

氏名	役　　職（就任時）	在任期間
鶴田　禎二	東京大学名誉教授・ (元)東京理科大学教授	平成 15 年　4 月　1 日～ 平成 19 年　3 月 31 日

＜理　事＞

氏名	役　　職（就任時）	在任期間
池田　重良	大阪大学名誉教授・ 龍谷大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 17 年　3 月 31 日
河合　七雄	大阪大学産業科学研究所教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 11 年　3 月 31 日
塩川　二朗	大阪大学名誉教授・ 近畿大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
鶴田　禎二	東京大学名誉教授・ 東京理科大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
川崎　雅弘	新技術事業団理事	平成　3 年　4 月　1 日～ 平成 13 年　8 月 20 日
小嶌　信勝	弁護士・ (元)広島高等検察庁検事長	平成　3 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
池中　徳治	大阪大学名誉教授・ 帝塚山学院短期大学学長	平成　7 年　4 月　1 日～ 平成 19 年　3 月 31 日
泉　　和子	アイアンドエフ・ビルディング㈱ 取締役	平成　7 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
海保　　孝	㈱大和銀行頭取	平成　7 年 12 月 14 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
千田　　貢	京都大学名誉教授・ 福井県立大学名誉教授	平成 15 年　4 月　1 日～ 平成 19 年　3 月 31 日
伊藤　龍象	大阪大学名誉教授	平成 17 年　4 月　1 日～ 平成 19 年　3 月 31 日

＜監　事＞

氏名	役　　職（就任時）	在任期間
中辻　　稔	サンワ･等松青木監査法人地区代表	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 17 年　3 月 31 日

評議員会関係

氏名	役　　職（就任時）	在任期間
荒木　　透	特殊法人日本科学技術情報センター 監事	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 11 年　3 月 31 日
作花　濟夫	京都大学化学研究所教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
高橋　満直	白水化学工業㈱顧問	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 13 年　3 月 31 日
伊藤　龍象	大阪大学名誉教授・ 高知工業高等専門学校校長	平成　7 年　4 月　1 日～ 平成 17 年　3 月 31 日
末高　　洽	東北大学名誉教授	平成　7 年　4 月　1 日～ 平成 13 年　3 月 31 日
千田　　貢	京都大学名誉教授・ 福井県立大学教授	平成　7 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
井上　祥平	東京大学名誉教授・ 東京理科大学教授	平成 11 年　4 月　1 日～ 平成 19 年　3 月 31 日
金丸　文一	大阪大学名誉教授・ 福井工業大学教授	平成 11 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
妹尾　　学	東京大学名誉教授・ 日本大学教授	平成 11 年　4 月　1 日～ 平成 17 年　3 月 31 日
茅　　幸二	岡崎国立共同研究機構 分子科学研究所所長	平成 13 年　4 月　1 日～ 平成 19 年　3 月 31 日

選考委員会関係

氏名	役　　職（就任時）	在任期間
池田　重良	大阪大学名誉教授・ 龍谷大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 17 年　3 月 31 日
伊藤　龍象	大阪大学名誉教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 13 年　3 月 31 日
井上　祥平	東京大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 13 年　3 月 31 日
小田　雅司	大阪大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
木村　茂行	科学技術庁無機材質研究所 総合研究官	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 11 年　3 月 31 日

妹尾　　学	東京大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
千田　　貢	京都大学教授	昭和 63 年 12 月 15 日～ 平成 13 年　3 月 31 日
小口　　醇	科学技術庁金属材料研究所 科学研究官	平成　2 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
茅　　幸二	(元)慶應義塾大学教授･(現)岡崎国立 共同研究機構分子科学研究所所長	平成　5 年　4 月　1 日～ 平成 15 年　3 月 31 日
加茂　睦和	科学技術庁無機材質研究所 総括無機材質研究官	平成　11 年　4 月　1 日～ 平成 17 年　3 月 31 日

事務局関係

役職名	氏名	在　任　期　間
事務局長	太田　　潔	平成 10 年 3 月 31 日　～　平成 14 年 6 月 30 日

現　行　役　員（平成 21 年 10 月 1 日現在）

役職名	氏名	役　　職（就任時）	在任期間
顧　問	池田　重良	大阪大学名誉教授・ 立命館大学 SR センター顧問	平成 17 年　4 月　1 日～
顧　問	池中　徳治	大阪大学名誉教授	平成 19 年　4 月　1 日～

理事会関係

役職名	氏名	役　　職（就任時）	在任期間
理事長	作花　濟夫	京都大学名誉教授	理事：平成 15 年 4 月　1 日～ 理事長：平成 19 年 4 月 1 日～
常務理事 （会長）	泉　　祐彰	ハクスイテック㈱ 代表取締役社長	理事：平成 10 年　1 月 20 日～ 会長：平成 10 年 3 月 26 日～
理　事	増本　　健	東北大学教授・ 東北大学金属材料研究所所長	平成　3 年　4 月　1 日～
理　事	高野　裕士	高野法律事務所所長・ 弁護士	平成 15 年　4 月　1 日～
理　事	妹尾　　学	東京大学名誉教授	平成 17 年　4 月　1 日～
理　事	井上　祥平	東京大学名誉教授・ 東京理科大学教授	平成 19 年　4 月　1 日～
理　事	茅　　幸二	独立行政法人 理化学研究所次世代スーパーコンピュータ開発実施本部副本部長	平成 19 年　4 月　1 日～
理　事	山本　雅英	京都大学名誉教授 立命館大学理工学部非常勤講師	平成 21 年　9 月２９日～
監　事	福里　　功	ハクスイテック㈱ 監査役	平成 15 年　4 月　1 日～
監　事	新川　大祐	公認会計士・税理士・ 北斗税理士法人 代表社員	平成 17 年　4 月　1 日～

評議員会関係

役職名	氏名	役　　職（就任時）	在任期間
評議員	木村　茂行	(元)科学技術庁無機材質研究所所長	平成 11 年　4 月　1 日～
評議員	泉　　豊禄	ハクスイテック㈱ 代表取締役社長	平成 15 年　4 月　1 日～
評議員	小口　　醇	(元)科学技術庁金属材料技術研究所 科学研究官	平成 15 年　4 月　1 日～
評議員	小田　雅司	大阪大学大学院理学研究科教授	平成 15 年　4 月　1 日～
評議員	新原　晧一	大阪大学産業科学研究所教授	平成 15 年　4 月　1 日～
評議員	足立　裕彦	京都大学名誉教授・関西学院大学 客員教授・国際高等研究所フェロー	平成 17 年　4 月　1 日～
評議員	加茂　睦和	独立行政法人 物質･材料研究機構 理事	平成 17 年　4 月　1 日～

選考委員会関係

役職名	氏名	役　　職（就任時）	在任期間
選考委員	新原　晧一	大阪大学教授	平成　3 年　4 月　1 日～
選考委員	足立　裕彦	京都大学教授	平成　7 年　4 月　1 日～
選考委員	山本　雅英	京都大学名誉教授・ 立命館大学客員教授	平成 12 年　4 月　1 日～
選考委員	赤池　敏宏	東京工業大学教授	平成 13 年　4 月　1 日～
選考委員	前田　泰昭	大阪府立大学教授	平成 13 年　4 月　1 日～
選考委員	原田　　明	大阪大学大学院理学研究科教授	平成 15 年　4 月　1 日～
選考委員	粟倉　泰弘	京都大学大学院工学研究科教授	平成 17 年　4 月　1 日～
選考委員	渡會　　仁	大阪大学大学院理学研究科教授	平成 17 年　4 月　1 日～

事務局関係

役職名	氏名	在　　任　　期　　間
事務局長	先﨑　　仁	平成 14 年　7 月　1 日　～

平成元年～平成 10 年度助成採択者

種　　別	件　数　総　計	助成金額総計（円）
研究助成	212	226,700,000
研究会リーダー助成	38	27,450,000
海外研究調成査出張参加助成	8	2,650,000
国際研究集会出張参加助成	164	44,450,000

平成 11 年～平成 20 年度助成採択者

種　　別	件　数　総　計	助成金額総計（円）
研究助成	146	152,730,000
研究会リーダー助成	28	11,300,000
国際研究集会出張参加助成	45	7,750,000

平成 11 年度～20 年度　助成採択者

研　究　助　成

平成 11 年度　研究助成（17 名、総額 1,900 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
壹岐　伸彦	東北大学大学院 工学研究科生物工学専攻	助　手	新規超分子型機能性材料創製のための基礎的研究
伊藤　彰浩	京都大学大学院 工学研究科分子工学専攻	助　手	環状芳香族分子を用いた新規スピン共役電子系の開拓
大庭　　亨	宇都宮大学 工学部応用化学科	助　手	超分子「電子ブロック」の構築
梶　　弘典	京都大学 化学研究所	助　手	オリゴシラン系新規結晶性高分子の合成と液晶特性に関する研究
春日　敏宏	名古屋工業大学 工学部材料工学科	助教授	セラミック人工歯冠材料への応用を目的とした新しい抗菌機能化表面処理プロセスの開発研究
木村　　浩	岐阜大学 工学部応用精密化学科	助　手	超脱塩系コロイド分散液を用いたレオオプティクス材料の開発
小玉　展宏	秋田大学 工学資源学部材料工学科	助教授	低次元歪み結晶場に基づくホールバーニング光記録材料の探索
後藤　　孝	東北大学　金属材料研究所 複合機能材料学研究部門	教　授	正 20 面体クラスター構造ホウ化物系高温熱電変換材料の開発
小宮山政晴	山梨大学 工学部無機合成研究施設	教　授	STM を用いた空間分解分光法による光触媒活性点構造の解明と新規光触媒設計への応用
斉藤　信雄	長岡技術科学大学 工学部	助　手	共鳴振動現象による格子変位効果を用いた新機能を持つ固体触媒の研究
佐藤　徹哉	慶應義塾大学 理工学部物理情報工学科	助教授	Pd 超微粒子における強磁性発生機構に関する研究
須藤　彰三	東北大学大学院 理学研究科物理学専攻	助教授	緩和層制御による高品位炭化ケイ素薄膜の育成
西口　宏泰	大分大学 工学部応用化学科	助　手	新規なメソポーラスリン酸アルミニウムの合成

日夏　幸雄	北海道大学大学院 理学研究科化学専攻	教　授	希土類およびルテニウムを含む新規秩序化ペロブスカイト複合酸化物の精密合成とその磁性
水野　哲孝	東京大学大学院 工学系研究科応用化学専攻	助教授	超効率選択酸化機能を有する酸化物クラスターの合成
山岸　忠明	金沢大学 工学部物質化学工学科	助教授	カリックスアレーンを用いたチューブ状分子の合成
渡部　行男	九州工業大学 工学部電気工学科	助教授	原子層表面処理と分域工学を施した $BaTiO_3$ 単結晶による冷電子源及び光検出素子

平成 12 年度　研究助成（18 名、総額 2,000 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
井原　栄治	愛媛大学 工学部応用化学科	助教授	金属カルボニル錯体をモノマー活性化剤として用いる新規重合触媒系の開発
鵜沼　英郎	山形大学 工学部物質化学工学科	助教授	水溶液からの酸化物薄膜の新規析出法の研究
岡本　健三	山形大学 工学部機能高分子工学科	助　手	非相溶 2 成分混合系の構造・レオロジー制御による材料設計
小野　浩司	長岡技術科学大学 工学部電気系	助教授	高機能液晶フォトリフラクティブ材料の開発とその応用
岸川　圭希	千葉大学 工学部物質工学科	助教授	分子間双極子－双極子相互作用を利用した液晶分子の高速応答化
君塚　信夫	九州大学大学院 工学研究院応用化学部門	教　授	有機－無機の精密複合化に基づく量子細線の開発
小茂鳥　潤	慶應義塾大学 理工学部機械工学科	助教授	チタン合金の腐食劣化挙動に及ぼすマクロファージの影響
杉浦　健一	大阪大学 産業科学研究所	助　手	「座布団分子」を用いた光集光型分子素子の合成研究
関谷　隆夫	横浜国立大学 工学部知能物理工学科	助　手	欠陥状態を制御した光触媒半導体二酸化チタンにおける電子状態の研究
嶽山正二郎	千葉大学 理学部物理学科	教　授	原子空孔量子空間配列制御による新機能材料と物性
田中　秀和	大阪大学 産業科学研究所	助　手	酸化物人工格子による室温・超巨大磁気抵抗材料の創成

柘植　顕彦	九州工業大学 工学部物質工学科	助教授	フルオレンを基本骨格とするアセチレン系大環状化合物の合成とそれを利用した超分子ナノ組織体の構築と機能化
土谷　浩一	豊橋技術科学大学 工学部生産システム工学系	助教授	巨大磁歪を示す遷移金属系強磁性形状記憶合金
野村　亮二	京都大学大学院 工学研究科高分子化学専攻	助　手	高速刺激応答性新規π共役高分子の創製
前　　一樹	北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科	助　手	磁性・金属ナノストライプの作製とその物性
宮武　智弘	龍谷大学 理工学部物質化学科	助　手	光合成色素ナノ粒子の構造制御
森口　　勇	長崎大学 工学部応用化学科	助教授	有機－無機ナノ複合化によるフォト・エレクトロクロミック素子の開発に関する研究
山田　陽一	山口大学 工学部電気電子工学科	助教授	低次元励起子分子の局在化の制御と光機能性に関する研究

平成 13 年度　研究助成（18 名、総額 1,800 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
生駒　忠昭	東北大学 多元物質科学研究所	助　手	分子素子材料を目指した擬縮退共役高分子の新規磁性中心の光物性
上原　宏樹	群馬大学 工学部材料工学科	助　手	新規高分子材料を用いたナノ・スケールでの摩擦特性制御
大北　英生	京都大学大学院 工学研究科高分子化学専攻	助　手	高分子超薄膜による電界効果トランジスタの開発
大塩　寛紀	筑波大学 化学系	教　授	高温単分子磁石の合成
吉川　信一	北海道大学大学院 工学研究科物質工学専攻	教　授	ゲル化自己燃焼法による機能性セラミックスナノ結晶の合成
坂口　浩司	静岡大学 電子工学研究所	助教授	光で動作する単一分子エレクトロニクス素子の開発
笹沼　裕二	千葉大学 工学部物質工学科	助教授	高分子結晶のための分子設計技術の開拓
高木　敏行	東北大学 流体科学研究所	教　授	多元機能材料としての強磁性形状記憶合金の創製

高橋　雅英	京都大学 化学研究所	助　手	無水酸塩基反応を利用した新規機能性有機 - 無機ハイブリッド低融点ガラス材料の創製
瀧宮　和男	広島大学大学院工学研究科 物質化学システム専攻	助　手	新規含セレン電子供与体を用いる分子性超伝導体の開発
竹下　道範	佐賀大学 理工学部機能物質化学科	助教授	光スイッチを有する強蛍光性錯体を用いた新規光デバイスの開発
橋本　修一	国立群馬工業高等専門学校 自然科学系	教　授	ゼオライト・ミクロ反応場の修飾による高度機能性複合材料の開発
廣瀬　敬治	大阪大学大学院 基礎工学研究科化学系専攻	助教授	クラウン化合物を鍵とする方向記憶型ロタキサンメモリーの構築
藤原　順介	大阪大学大学院工学研究科 機械システム工学専攻	助教授	超微細油水混合系微粒子のトライボロジー効果発現機構に関する基礎研究
松田　　理	北海道大学大学院 工学研究科量子物理工学専攻	助教授	斜め入射ポンププローブ法による物性評価技術の開発
丸山　　厚	東京工業大学大学院生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻	助教授	核酸間認識を厳密化する高分子複合体の設計と DNA 解析への展開
山口　栄雄	神奈川大学 工学部電気電子情報工学科	助教授	Ⅲ族窒化物半導体を用いた水素発生法の検討－誘電分極と光触媒反応による水分解を根幹として
山下　正廣	東京都立大学大学院 理学研究科化学専攻	教　授	巨大な非線形光学効果を示す一次元金属錯体の創製

平成 14 年度　研究助成（12 名、総額 1,303 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
青柳　隆夫	鹿児島大学大学院理工学研究科 ナノ構造先端材料工学専攻	教　授	新しい特性を有する生分解性材料の開発とバイオメディカル領域への応用
安蘇　芳雄	広島大学大学院工学研究科 物質化学システム専攻	助教授	光機能化長鎖オリゴチオフェンの開発と光電変換素子への応用
石原　一彰	名古屋大学大学院 工学研究科生物機能工学専攻	助教授	高機能超強酸性材料の分子設計
桑原　裕司	大阪大学大学院 工学研究科精密科学専攻	助教授	アルカリ金属原子架橋生成と原子スイッチへの応用
小出　康夫	物質・材料研究機構 物質研究所 スーパーダイヤグループ	主　席 研究員	ダイヤモンド火炎センサーに関する研究

近藤　　満	静岡大学 理学部化学科	助教授	ろ過回収型新規ナノオーダー均一系触媒の開発
末益　　崇	筑波大学 物理工学系	講　師	環境に優しい半導体鉄シリサイド連続膜を活性層とする光インターコネクション用発光ダイオードの作製
田中　一郎	和歌山大学 システム工学部精密物質学科	助教授	原子間力顕微鏡による半導体コロイダルナノドットの単一粒子トンネル分光測定
鳥越　秀峰	東京理科大学 理学部応用化学科	講　師	高分子材料による人工的遺伝子発現制御系の構築
西村　一寛	豊橋技術科学大学 電気・電子工学系	助　手	ナノスケールで構造を制御した磁性酸化物超微粒子のソフト溶液形成と３次元磁性フォトニック結晶への応用
古川　裕次	北海道大学大学院 理学研究科物理学専攻	助　手	ナノスケール分子磁性体におけるスピントンネル効果の核磁気共鳴法による研究
森田　智行	京都大学大学院 工学研究科材料化学専攻	助　手	ヘリックスペプチド自己組織化膜による光電流スイッチングシステムの構築

平成 15 年度　研究助成（14 名、総額 1,440 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
大石　泰丈	豊田工業大学大学院 工学研究科	教　授	遷移金属元素含有ナノ構造超広帯域光増幅媒体の研究
梶川　靖友	島根大学 総合理工学部 電子制御システム工学科	助教授	環境モニタ用の新半導体材料の開発
木口　賢紀	東京工業大学 工学部 総合分析支援センター	助　手	異種原子価イオン混合ドープによるジルコニアバッファ層の電気特性向上に関する研究
久保　由治	埼玉大学 工学部応用化学科	助教授	ナノ集積場もしくは膜集積場を利用した新規光学センサーシステムの構築と水系センシングへの適用
桑原　英樹	上智大学 理工学部物理学科	助教授	強相関遷移金属酸化物結晶による超高速非線形光学材料の探索
嶋田　豊司	国立奈良工業高等専門学校 物質化学工学科	助教授	不斉メソポーラスシリカゲルを用いた高立体選択的合成反応の開発

妹尾　政宣	京都大学 化学研究所 構造解析基礎研究部門Ⅲ	助　手	ナノポーラスシリコーンエラストマーの製造技術法の研究
玉川　浩久	岐阜大学 工学部人間情報システム工学科	助　手	電解質高分子ゲルの物性の評価と電界応答性アクチュエータへの応用
野島　高彦	九州大学大学院 工学研究院応用化学部門	助　手	新規な手法で情報分子を保持した固相表面の構築
林田　　修	九州大学 先導物質化学研究所	助教授	超分子化学修飾法による機能性生体分子材料の開発
松田　厚範	豊橋技術科学大学 工学部物質工学系	助教授	シリカ－チタニア系ゲル膜の外部場温水処理によるチタニアナノ微結晶の生成に関する研究
森口　哲次	九州工業大学大学院 機能システム創成工学専攻	助　手	特異な磁性及び発光特性を有する新規構造ランタノイド錯体を含む分子組織体の開発
文珠四郎秀昭	大阪大学大学院 理学研究科化学専攻	助　手	液中微粒子のレーザー光泳動における光熱変換効果に関する研究
矢田　光徳	佐賀大学 理工学部機能物質化学科	助教授	酸化物ナノチューブの自己組織的形成過程の解明と機能化

平成 16 年度　研究助成（12 名、1,200 万円）

＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
大貝　　猛	長崎大学 工学部材料工学科	助教授	シリンダー状ナノポアー中への強磁性金属多層ナノワイヤーの作製と巨大磁気抵抗効果
斎藤　一弥	筑波大学大学院数理物質科学研究科 物質創成先端科学専攻	教　授	負の熱膨張を示す固溶体酸化物の熱容量と格子振動
澤井　大輔	東京理科大学 理学部応用化学科	助　手	重合時に異方性を有するポリアクリロニトリル粉末を原料とした新規ナノカーボンの創製
三田　文雄	京都大学大学院 工学研究科高分子化学専攻	助教授	アミノ酸を基盤とするナノスケールらせん集積体の合成と機能評価
高橋　純一	東北大学 多元物質科学研究所	助　手	4d 電子系遷移金属元素を含む新規熱電酸化物の創製
高橋　庸夫	北海道大学大学院情報科学研究科 情報エレクトロニクス専攻	教　授	金属ナノドットアレイの作製と機能デバイス応用の研究

忠永　清治	大阪府立大学大学院 工学研究科物質系専攻	助教授	微細パターン形成を目指したガラス性液体の固体に対する濡れ性の評価
田中　　昭	静岡大学 電子工学研究所 ナノデバイス材料部門	助教授	Ⅲ族窒化物結晶と炭化珪素結晶との異種接合系の開発
野崎　京子	東京大学大学院 工学系研究科化学生命工学専攻	教　授	光で剛直性を制御できる立体規則性高分子材料の開発
福田　　隆	大阪大学大学院 工学研究科マテリアル科学専攻	講　師	Fe - Pd 系強磁性形状記憶合金における磁場による双晶変形とそれにともなう巨大歪に関する研究
藤原　一彦	秋田大学 工学資源学部環境物質工学科	助　手	タンパク質をサイズ認識する表面構造の構築
前田　大光	立命館大学 理工学部化学生物工学科	専　任 講　師	ケイ素架橋環状オリゴピロールの合成

平成 17 年度　研究助成（12 名、総額 1,188 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
明石　孝也	北海道大学大学院 工学研究科物質化学専攻	助教授	ゾルゲル法による新規強誘電体 $BaTi_2O_5$ 一軸配向薄膜の低温合成
池田　　浩	東北大学大学院 理学研究科化学専攻	助　手	反応性ビラジカルの熱発光機構の解明と新規有機 EL への応用
石井　知彦	香川大学 工学部材料創造工学科	助教授	フラーレン・単分子磁石共晶化合物の構造・磁性および電子状態
鬼塚　清孝	大阪大学 産業科学研究所 分子合成化学研究分野	助教授	有機－無機複合材料を指向した有機金属デンドリマーの精密合成と機能研究
上垣外正己	名古屋大学大学院 工学研究科化学・生物工学専攻	教　授	グラフトおよびブロック構造を有する AxBAx 型新規共重合体の合成と高機能性材料の開発
田川　陽一	東京工業大学大学院生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻	助教授	薬物試験細胞チップ作製のための細胞認識性マトリックス材料の開発研究
土本　晃久	北陸先端科学技術大学院大学 材料科学研究科	助　手	アリール及びヘテロアリール[α]カルバゾール誘導体を基本骨格とする高効率発光材料の開発
鳥本　　司	名古屋大学大学院 工学研究科結晶材料工学専攻	教　授	シリカ－半導体ナノ粒子複合体の固定化と化学センサーへの応用
中村　将志	千葉大学 工学部共生応用化学科	助　手	分子レベル構築による電極表面の光機能化

中山　忠親	長岡技術科学大学 極限エネルギー密度工学研究センター	助　手	シングルナノ粒子分散スラリーを用いた多元固溶体創製と物質探索
半田　克己	立命館大学 BKC 研究部門 BKC リエゾンオフィス	契　約 職　員	超軟 X 線吸収分光法による Li 化合物中の Li の化学結合状態の非破壊分析法の開発
藤本　　靖	大阪大学 レーザーエネルギー学研究センター	助　手	Bi を発光起源とする新しい蛍光体を用いたレーザー光発生に関する研究

平成 18 年度　研究助成（12 名、総額 1,196 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
芥川　智行	北海道大学大学院 電子科学研究所	助教授	両親媒性巨大クラスターの材料化に関する研究
楠瀬　尚史	大阪大学 産業科学研究所	助　手	粒界相制御による高熱伝導性 AIN セラミックスへの電気伝導性付与
島川　祐一	京都大学 化学研究所 物質創製化学研究系	教　授	新規青色発光 $SrTiO_3$ の発光機構解明のための研究
谷　　敬太	大阪教育大学 教育学部教養学科	助教授	カルバゾール発色団の超分子光化学相互作用に基づく新規な蛍光センサーの開発
中島　　覚	広島大学 自然科学研究支援開発センター	助教授	ナノ空間を利用したスピン状態制御と高機能性材料への応用
永瀬　　隆	大阪府立大学大学院 工学研究科電子物理工学分野	助　手	単一分子デバイス実現のためのナノギャップ電極による共役系分子ワイヤー接合の電気伝導機構の解明
中野　　環	北海道大学大学院 工学研究科生物機能高分子専攻	教　授	光エネルギー変換・貯蔵機能を有する高分子の創成
橋本　久子	東北大学大学院 理学研究科化学専攻	講　師	可逆的磁性変換が可能な有機金属二核錯体を構成ユニットとする一次元型多核錯体の合成研究
花咲　徳亮	岡山大学大学院 自然科学研究科	助教授	分子性物質における磁性・誘電性の相関効果
溝口　照康	東京大学大学院 工学系研究科総合研究機構	助　手	セラミックス結晶界面における点欠陥の定量化と機能設計
守友　　浩	筑波大学大学院 数理物質科学研究科物理学専攻	教　授	ナノサイズ遷移金属錯体の作成と巨大光応答性の発現

湯川　　宏	名古屋大学大学院工学研究科 マテリアル理工学専攻	助　手	水素貯蔵用アラネート系錯体水素化物の合成と量子材料設計

平成 19 年度　研究助成（16 名、総額 1,600 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
岩本　　啓	広島大学大学院 理学研究科化学専攻	助　教	機械的結合の運動性により発現する光学表示素子の開発
加藤　知香	静岡大学 理学部化学科	准教授	ポリ酸塩超分子構造を生かした高機能触媒材料の創成
北濱　康孝	関西学院大学 理工学研究科化学専攻	博　士 研究員	顕微ラマン分光法による色素分子会合ナノ構造体の分子配列の決定と設計指針の確立
北本　仁孝	東京工業大学大学院総合理工学研究科 物質科学創造専攻	准教授	磁性ナノ粒子の交流磁場応答とバイオ・医療への応用
鈴木　修一	大阪市立大学大学院 理学研究科物質分子系専攻	助　教	安定ラジカル置換ラジカルイオンを用いた分子性磁石の構築
田中　克志	京都大学大学院 工学研究科材料工学専攻	准教授	弾性拘束による水素吸蔵圧・吸蔵温度制御
豊田　太郎	千葉大学大学院 工学研究科共生応用化学専攻	助　教	フロー・ホログラフィック・サイトメトリーの開発
永谷　広久	長崎大学 工学部応用化学科 ^	助　教	光機能性有機ナノ粒子を用いた光スイッチング型分子カプセルの開発
中平　　敦	大阪府立大学大学院 工学研究科物質化学専攻	教　授	陽極酸化による新規な構造を持つメソポーラスチタニアの合成と評価
鍋谷　暢一	山梨大学大学院 医学工学総合研究部 機能材料システム工学専攻	准教授	マルチバンドギャップ半導体を用いた高効率太陽電池の開発
西林　仁昭	東京大学大学院 工学系研究科総合研究機構	准教授	窒素固定酵素ニトロゲナーゼに学ぶ次世代型窒素固定法の開発
波多野　学	名古屋大学大学院 工学研究科化学生物工学専攻	講　師	超分子ナノ制御に基づく超強酸性有機材料の開発
平下　恒久	名古屋工業大学大学院 工学研究科おもひ領域	助　教	蒸留可能なイオン液体の開発

堀田　弘樹	群馬大学大学院 工学研究科 応用化学・生物化学専攻	助　教	新規アモルファスフッ素樹脂を用いたマイクロチップの作製とそれを用いた高感度吸光分析システムの開発
三浦　佳子	北陸先端科学技術大学院大学 マテリアルサイエンス研究科	准教授	自己組織性高分子を用いた生体分子の再構築と機能制御
森田　　靖	大阪大学大学院 理学研究科化学専攻	准教授	核酸塩基の特異的かつ相補的水素結合を活用した純有機物分子性金属の開発

平成 20 年度　研究助成（15 名、総額 1,500 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　課　題　名
市坪　　哲	京都大学大学院 工学研究科材料工学専攻	准教授	磁性体ナノロッド組織化による高密度垂直磁化膜の作製
川崎　晋司	名古屋工業大学大学院 工学研究科物質工学専攻	准教授	メソポーラスカーボンに埋め込んだシリコンナノロッドの Li 貯蔵特性
岸村　顕広	東京大学大学院 工学系研究科 マテリアル工学専攻	助　教	ドラッグデリバリーシステムへの応用を指向した環境応答的形態変化に基づく高分子中空ナノ粒子の創製
桑原　俊介	東邦大学 理学部化学科	講　師	DNA のらせん構造制御を目指した新規分子機械の開発
近藤　勝義	大阪大学 接合科学研究所 複合化機構学分野	教　授	カーボンナノチューブの真の機能発現に向けた単分散化プロセスとそれを用いたチタン基ナノコンポジット材料の超高強度化に関する研究
城田　秀明	千葉大学大学院融合科学研究科 ナノサイエンス専攻	准教授	分子間振動の直接測定によるイオン液体の新しい特性評価法
清野　智史	大阪大学大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻	講　師	放射線還元法による多孔質体への貴金属担持手法の開発
着本　　享	東北大学 原子分子材料科学高等研究機構	講　師	薄膜冶金学的アプローチによるデバイス用微細銅配線の合金化技術
中野　元裕	大阪大学大学院 工学研究科応用化学専攻	准教授	高対称性単一分子磁石の磁気異方性の起源に関する研究
沼田　宗典	京都府立大学大学院 生命環境科学研究科	准教授	らせん状多糖高分子のラッピング機能を利用したビルドアップ型ナノマテリアルの創製
羽田野直道	東京大学 生産技術研究所	准教授	量子ネルンスト効果の理論と実験

原　　雄介	早稲田大学　先端科学・健康医療融合研究機構	講　師	分子構造が三次元的に空間デザインされた新規機能性ゲルの創製
久本　秀明	大阪府立大学大学院 工学研究科応用化学分野	准教授	フルオラス溶媒可溶化変色色素分子・イオン認識分子の開発と新しい高選択的光センシング系の設計
平野　義明	関西学院大学大学院 理工学研究科	博　士 研究員	有機半導体のデバイス応用を見据えたセルフアセンブリーナノ構造体超薄膜の創製、制御、評価に関する基礎研究
細谷　孝充	東京工業大学大学院 生命理工学研究科生命情報専攻	准教授	光反応性アミノ酸素子の開発

研究会リーダー助成

平成 11 年度　研究会リーダー助成（5 名、総額 205 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　会　名
井川　博行	神奈川工科大学 工学部 応用化学科	教　授	多機能新セラミックス材料創発ワークショップ　ー光機能性材料から熱電変換材料までー Workshop on the Exploration of Creative Multi-talent New Ceramics 平成 12 年 7 月 27 日～7 月 28 日 主催：日本セラミックス協会原料部会 開催地：日本セラミックス協会会議室（東京）
石田　清仁	東北大学 未来科学技術 共同研究センター	教　授	International Symposium on User Aspects of Phase Diagrams （状態図（相図）の応用に関する国際シンポジウム） 平成 12 年 9 月 19 日～9 月 21 日 主催：APDIC 合金状態図国際委員会 開催地：仙台国際センター
岸野　克己	上智大学 理工学部 電気電子工学科	教　授	窒化物半導体国際ワークショップ International Workshop on Nitride Semiconductors (IWN2000) 平成 12 年 9 月 24 日～9 月 27 日 主催：応用物理学会 開催地：名古屋国際会議場
橘　　邦英	京都大学大学院 工学研究科 電子物性工学専攻	教　授	非平衡プラズマー固体表面相互作用の基礎的現象に関する国際ワークショップ Basic Aspects of Non-equilibrium Plasmas Interacting with Surfaces, BANPIS-2000 平成 12 年 1 月 28 日～1 月 30 日 主催：BANPIS-2000 組織委員会 開催地：ハウステンボス・コンベンションセンター（佐世保市）
福井　孝志	北海道大学 量子界面エレクトロニクス研究センター	教　授	第 10 回有機金属気相成長国際会議 The Tenth International Conference on Metal Organic Vapor Phase Epitaxy ; 略称　ICMOVPE-X 平成 12 年 6 月 5 日～6 月 9 日 主催：社団法人　応用物理学会 開催地：北海道大学学術交流会館

平成 12 年度　研究会リーダー助成（8 名、総額 310 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　会　名
朝日　　一	大阪大学 産業科学研究所	助教授	第 13 回インジウム燐および関連材料に関する国際会議 13th International Conference on Indium Phosphide & Related Materials 平成 13 年 5 月 14 日～5 月 18 日 主催：応用物理学会 IEEE Laser & Electro-Optics Society IEEE Election Device Society 開催地：奈良県新公会堂
江頭　　誠	長崎大学 工学部 材料工学科	教　授	5th East Asian Conference on Chemical Sensors 第 5 回東アジア化学センサ会議 平成 13 年 12 月 4 日～12 月 7 日 主催：電気化学会、化学センサ研究会 開催地：佐世保市
坂田　祥光	大阪大学 産業科学研究所	所　長 ・ 教　授	機能性分子材料の設計と開発 －分子認識と薄膜化について－ 平成 13 年 10 月 14 日～10 月 17 日 主催：「機能性分子材料の設計と開発」研究会組織委員会 開催地：大阪大学吹田キャンパス（銀杏会館）
渋谷　陽二	大阪大学大学院 工学研究科 機械システム工学専攻	教　授	材料創製のための超大規模分子動力学シミュレーションに関するワークショップ 平成 13 年 5 月 24 日～5 月 25 日 主催：日本材料学会 共催：大阪大学大学院工学研究科 開催地：大阪大学コンベンションセンター
高井　　治	名古屋大学大学院 工学研究科 材料プロセス工学専攻	教　授	表面工学国際会議 Frontiers of Surface Engineering 2001 (FSE2001) 平成 13 年 10 月 28 日～11 月 1 日 主催：社団法人　表面技術協会 開催地：名古屋国際会議場
西永　　頌	名城大学 理工学部 材料機能工学科	教　授	第 13 回結晶成長国際会議 International Conference on Crystal Growth -13 in conjunction with Vapor Growth and Epitaxy-11 平成 13 年 7 月 30 日～8 月 4 日 主催：第 13 回結晶成長国際会議組織委員会 開催地：同志社大学今出川キャンパス

平尾　俊一	大阪大学大学院 工学研究科 物質化学専攻	教　授	第 3 回国際バナジウム化学・ 生物化学シンポジウム 平成 13 年 11 月 26 日～11 月 29 日 主催：第 3 回国際バナジウム化学・生物化学 シンポジウム組織委員会 開催地：大阪大学コンベンションセンター
山田　省二	北陸先端科学技術 大学院大学 材料科学研究科	助教授	第 10 回狭ギャップ半導体及び 関連小エネルギー現象国際会議 平成 13 年 5 月 27 日～5 月 31 日 主催：北陸先端科学技術大学院大学 開催地：北陸先端科学技術大学院大学

平成 13 年度　研究会リーダー助成（2 名、総額 60 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　会　名
伊藤　嘉昭	京都大学 化学研究所 構造解析基礎研究部門	助教授	選択励起法による物質の電子状態の研究（原子における光電離現象の国際セミナーの応用セッション） 平成 14 年 8 月 19 日～8 月 20 日 主催：京都大学化学研究所 開催地：京都府宇治市
藤嶋　　昭	東京大学大学院 工学系研究科 応用化学専攻	教　授	14th International Conference on Photo-chemical Conversion and Storage of Solar Energy (IPS-14) 平成 14 年 8 月 4 日～8 月 9 日 主催：国際組織委員会(IPS International Organizing Committee) 開催地：北海道大学、学術交流会館、 クラーク会館

平成 14 年度　研究会リーダー助成（5 名、総額 200 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　会　名
岩澤　康裕	東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻	教　授	Third International Workshop on Oxide Surfaces (IWOX-3) 平成 15 年 1 月 27 日～1 月 31 日 主催：IWOX-3 組織委員会 開催地：北海道大学国際交流会館

大久保達也	東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻	助教授	The 8th IUMRS International Conference on Advanced Materials (ICAM2003) Session D-2 “Self-assembled materials”の Postsymposium “Advanced Functional Mesoporous Materials” 先端機能性メソポーラス材料 平成 15 年 10 月 14 日 主催：ゼオライト学会、触媒学会、 化学工学会材料・界面部会 開催地：東京大学
糊谷　信三	京都大学 化学研究所 構造解析基礎研究部門	教　授	第 9 回国際エラストマーセミナー(ISE 2003) 平成 15 年 4 月 1 日～4 月 4 日 主催：京都大学化学研究所、金沢大学工学部 開催地：京都パークホテル
徳山　道夫	東北大学 流体科学研究所	教　授	第 3 回国際シンポジウム「複雑系における非常にゆっくりとした緩和現象の説明」 平成 15 年 11 月 3 日～11 月 8 日 主催：東北大学流体科学研究所 開催地：太白区文化センター(仙台市)
野田　哲二	物質・材料研究機構 ナノマテリアル研究所 ナノファブリケーショングループ	ディレクター	第 11 回日独化学情報ワークショップ 平成 15 年 5 月 22 日～5 月 23 日 主催：物質・材料研究機構 開催地：京都

平成 15 年度　研究会リーダー助成（3 名、120 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　会　名
今中　信人	大阪大学大学院 工学研究科 物質化学専攻	教　授	Rare Earths ’04 in Nara 平成 16 年 11 月 7 日～11 月 12 日 主催：日本希土類学会 開催地：奈良県
笠井　秀明	大阪大学大学院 工学研究科 応用物理学専攻	教　授	International Conference on Nanospintronics Design and Realization 平成 16 年 5 月 24 日～5 月 28 日 主催：ナノスピントロニクスのデザインと創製に関する国際会議 開催地：京都府相楽郡 財団法人　国際高等研究所
川合　真紀	理化学研究所	主　任 研究員	第 10 回「表面における電子励起誘起原子脱離」国際ワークショップ 平成 16 年 11 月 8 日～11 月 11 日 主催：「表面における電子励起誘起原子脱離」 国際ワークショップ組織委員会 開催地：静岡市裾野市 帝人株式会社　富士教育研修所

平成 16 年度　研究会リーダー助成（1 名、35 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　　究　　会　　名
坂東　　博	大阪府立大学大学院 工学研究科 物質系専攻 機能物質科学分野	教　授	未来への国際環境講座　－　環境と物質 International Lecture on Our Environment for the Future － On Our Environment and Artificial Materials 平成 17 年 6 月 18 日 主催：「未来への国際環境講座」実行委員会 開催地：大阪市

＜平成 17 年度・18 年度は休止＞

平成 19 年度　研究会リーダー助成（1 名、50 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　　究　　会　　名
森下　政夫	兵庫県立大学大学院 工学研究科 物質系工学専攻	教　授	The 5th International Workshop on DV-Xα Method [DV-Xα 2008] （第 5 回 DV-Xα 国際ワークショップ） 平成 20 年 8 月 6 日～8 月 8 日 主催：DV-Xα 研究協会 開催地：姫路市　兵庫県立大学

平成 20 年度　研究会リーダー助成（3 名、150 万円）＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　　究　　会　　名
石谷　　治	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学専攻	教　授	18th International Symposium on the Photochemistry and Photophysics of Coordination Compounds (18th ISPPCC) 第 18 回配位化合物の光化学･光物理国際シンポジウム 平成 21 年 7 月 4 日～7 月 9 日 主催：複合系の光機能研究会 開催地：札幌市
大槻　主税	名古屋大学大学院 工学研究科 結晶材料工学専攻	教　授	第 9 回(2009 年)アジアバイオセラミックス会議(共同開催:日本セラミックス協会生体関連材料部会 10 周年記念特別シンポジウム) “9th Asian BioCeramics Symposium (ABC2009)” in conjunction with “Special Symposium for Celebration on the 10th Anniversary of the Division of Ceramics in Medicine, Biology and Biomimetics, The Ceramic Society of Japan” 平成 21 年 12 月 8 日～12 月 11 日 主催：日本セラミックス協会 生体関連材料部会 開催地：名古屋国際会議場
黒田　一幸	早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科	教　授	Zeolites and Microporous Crystals 2009 (ZMPC2009) (ゼオライトとミクロ多孔質結晶に関する国際会議 2009) 平成 21 年 8 月 3 日～8 月 7 日 主催：ゼオライト学会 開催地：早稲田大学

国際研究集会出張参加助成

平成 11 年度　国際研究集会出張参加助成（19 名、総額 355 万円）

＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　集　会・出　張　期　間
安藤　康夫	東北大学大学院 工学研究科 応用物理学専攻	助　手	第 44 回磁気と磁性材料に関する国際会議 44th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials 主催：American Institute of Physics(アメリカ物理学会), Magnetic Society of the IEEE（アメリカ電気学会磁気部門） 開催地：アメリカ合衆国/サンノゼ 出張期間：平成 11 年 11 月 15 日～11 月 18 日
叶　　深	北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻	助　手	第 197 回米国電気化学会年会 The 197th Meeting of the Electrochemical Society, Inc. 主催：米国電気化学会 (Electrochemical Society, Inc.) 開催地：カナダ/トロント 出張期間：平成 12 年 5 月 14 日～5 月 19 日
池田　裕子	京都工芸繊維大学 工芸学部 物質工学科	助　手	アマゾン国際ゴム会議 Worldwide Amazon Rubber Conference 主催：ドイツゴム協会 アマゾン国際ゴム会議組織委員会 開催地：ブラジル/マナウス 出張期間：平成 11 年 10 月 31 日～11 月 4 日
横野　照尚	大阪大学 有機光工学研究 センター	助教授	1999 年電気化学日米合同大会 1999 Joint International Meeting 主催：（社）電気化学会,The Electrochemical Society, Inc.(ECS) 開催地：アメリカ合衆国/ホノルル 出張期間：平成 11 年 10 月 17 日～10 月 22 日
大谷　　亨	北陸先端 科学技術大学院大学 材料科学研究科	助　手	第 6 回世界バイオマテリアル会議 (Sixth World Biomaterials Congress) 主催：Society for Biomaterials, USA European Society for Biomaterials 日本バイオマテリアル学会などの 7 学会 開催地：アメリカ合衆国/ハワイ 出張期間：平成 12 年 5 月 15 日～5 月 20 日

鬼村謙二郎	山口大学 工学部 応用化学工学科	助　手	第 12 回不斉認識国際会議 12th International Symposium on Chirality (ISCD 12, Chirality 2000) 主催：The Societe Francaise de Chimie 開催地：フランス/モンブラン、シャモニー 出張期間：平成 12 年 9 月 24 日～9 月 28 日
門川　淳一	山形大学 工学部 物質工学科	助教授	多糖研究の新しい展望に関する国際シンポジウム International Conference on New Horizons in Polysaccharide Research 主催：ドイツ学術振興会 開催地：ドイツ/ベルリン、ポツダム 出張期間：平成 12 年 5 月 8 日～5 月 12 日
北川　　進	京都大学大学院 工学研究科 合成・生物化学専攻	教　授	第 8 回アジア化学会議 The 8th Asia Chemical Congress 主催：アジア化学連合 開催地：台北 出張期間：平成 11 年 11 月 21 日～11 月 24 日
木村　一弘	科学技術庁 金属材料技術研究所 材料創製ステーション	主　任 研究官	第 5 回チャールズパーソンズタービン国際会議 5th International Charles Parsons Turbine Conference 主催：英国材料学会 開催地：イギリス/ケンブリッジ 出張期間：平成 12 年 7 月 3 日～7 月 7 日
久保園芳博	岡山大学大学院 自然科学研究科	助　手	第 197 回米国電気化学会年会 The 197th Meeting of the Electrochemical Society, Inc. 主催：米国電気化学会 (Electrochemical Society, Inc.) 開催地：カナダ/トロント 出張期間：平成 12 年 5 月 14 日～5 月 19 日
後藤　博正	筑波大学 物質工学系	助　手	合成金属に関する科学と技術の国際会議 International Conference on Science and Technology of Synthetic Metals 主催：Institute for Solid State Physics Technical University Graz 開催地：オーストリア/ガステイン 出張期間：平成 12 年 7 月 15 日～7 月 21 日
滝川　浩史	豊橋技術科学大学 工学部 電気電子工学系	助教授	1999 年電気化学会国際合同大会 1999 Joint International Meeting of Electrochemical Society 主催：米国電気化学会、日本電気化学会 日本応用物理学会 開催地：アメリカ合衆国/ホノルル 出張期間：平成 11 年 10 月 17 日～10 月 22 日

占　　国棟	科学技術庁 無機材質研究所 第３研究グループ	研究員	アメリカセラミックス学会年会 Annual Meeting of American Ceramic Society 主催：アメリカセラミックス学会 開催地：アメリカ合衆国/セントルイス 出張期間：平成 12 年 4 月 30 日～5 月 3 日
中野　正基	長崎大学 工学部 電気電子工学科	助　手	第 44 回磁気と磁性材料に関する国際会議 44th Annual Conference on Magnetism and Magnetic Materials 主催：American Institute of Physics(アメリカ物理学会), Magnetic Society of the IEEE（アメリカ電気学会磁気部門） 開催地：アメリカ合衆国/サンノゼ 出張期間：平成 11 年 11 月 15 日～11 月 18 日
播磨　　弘	大阪大学大学院 工学研究科 応用物理学専攻	助教授	第 8 回 SiC と関連物質に関する国際会議 International Conference on Silicon Carbide and Related Materials 1999(ICSCRM99) 主催：Cree Research Inc., and North Carolina State University 開催地：アメリカ合衆国/ノースカロライナ 出張期間：平成 11 年 10 月 10 日～10 月 15 日
本間　敬之	早稲田大学 理工学部 応用化学科	助教授	第 3 回電気化学マイクロシステムテクノロジー国際シンポジウム　および　第 15 回国際表面処理会議 The 3rd International Symposium on Electrochemical Microsystem Technologies & 15th World INTERFINISH Congress 主催：AGEF（ドイツ電気化学会）および国際表面処理連合 開催地：ドイツ/Garmisch-Pertenkirchen 出張期間：平成 12 年 9 月 10 日～9 月 15 日
松井　真二	姫路工業大学 高度産業科学技術研究所	教　授	1999 年秋期材料物性国際会議 MRS (Material Research Society) 1999 Fall Meeting 主催：Material Research Society 開催地：アメリカ合衆国/ボストン 出張期間：平成 11 年 11 月 29 日～12 月 3 日）
松浦　清隆	北海道大学大学院 工学研究科 物質工学専攻	助　手	第 6 回傾斜機能材料国際会議 6th International Symposium on Functionally Graded Materials 主催：米国セラミック協会 (American Ceramic Society) 開催地：アメリカ合衆国/コロラド州 出張期間：平成 12 年 9 月 10 日～9 月 14 日

横山　昌幸	東京女子医科大学 医学部 医用工学研究施設	講　師	第 6 回世界バイオマテリアル会議 Sixth World Biomaterial Congress 主催：Society for Biomaterials, USA European Society for Biomaterials 日本バイオマテリアル学会などの 7 学会 開催地：アメリカ合衆国/ハワイ 出張期間：平成 12 年 5 月 15 日～5 月 20 日

平成 12 年度　国際研究集会出張参加助成（8 名、総額 152 万円）

＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　集　会・出　張　期　間
市村　正也	名古屋工業大学 工学部 電気情報工学科	助教授	結晶成長の基礎に関するシンポジウム Symposium on Fundamentals of Crystal Growth 主催：アナ大学 結晶成長センター 開催地：インド/チェンナイ 出張期間：平成 12 年 11 月 6 日～11 月 7 日
白谷　正治	九州大学大学院 システム情報科学研究院 電子デバイス工学部門	助教授	2001 年米国材料学会春期会議 2001 Materials Research Society Spring Meeting 主催：Materials Research Society 開催地：アメリカ/サンフランシスコ 出張期間：平成 13 年 4 月 16 日～4 月 20 日
高橋　直行	静岡大学 工学部 物質工学科	助教授	ヨーロッパ諸国無機化学会議 6th FIGIPS Meeting in Inorganic Chemistry 主催：フランス・イタリア・ギリシャ・イスラエル・ポルトガル・スペイン無機化学会 開催地：スペイン/バルセロナ 出張期間：平成 13 年 7 月 15 日～7 月 20 日
田畑　　仁	大阪大学 産業科学研究所	助教授	第 7 回酸化物エレクトロニクス国際ワークショップ The 7th International Workshop on Oxide Electronics 主催：第 7 回酸化物エレクトロニクス国際ワークショップ委員会 開催地：スイス/レ・ディアブルレ 出張期間：平成 12 年 10 月 11 日～10 月 13 日

秩父　重英	筑波大学 物理工学系	助教授	半導体界面における物理・化学に関する第 28 回会議 Physics & Chemistry of Semiconductor Interfaces 28 主催：米国真空科学技術学会 開催地：アメリカ合衆国/フロリダ州 出張期間：平成 13 年 1 月 9 日～1 月 12 日
塙　　隆夫	科学技術庁 金属材料技術研究所 力学機構研究部 第 6 研究室	室　長	米国生体材料学会第 27 回年次大会 27th Annual Meeting of Society for Biomaterials 主催：Society for Biomaterials (米国生体材料学会) 開催地：アメリカ合衆国/ミネソタ州 出張期間：平成 13 年 4 月 24 日～4 月 29 日
原田　泰典	豊橋技術科学大学 工学部 生産システム工学系	助　手	先端材料加工製造技術国際会議 International Conference on Processing and Manufacturing of Advanced Materials 主催：先端材料加工製造技術国際会議 組織委員会 開催地：アメリカ合衆国/ラスベガス 出張期間：平成 12 年 12 月 4 日～12 月 8 日
村上　　存	東京大学大学院 工学系研究科 産業機械工学専攻	助教授	迅速試作・高速加工・自由形状造形に関するシンポジウム Symposium on Rapid Prototyping, Rapid Tooling and Solid Freeform Fabrication for the Next Millennium 主催：The American Society of Mechanical Engineers, Manufacturing Engineering Division (米国機械学会、製造工学部門) 開催地：アメリカ合衆国/フロリダ 出張期間：平成 12 年 11 月 5 日～11 月 10 日

平成 13 年度　国際研究集会出張参加助成（9 名、総額 130 万円）

＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　集　会・出　張　期　間
一戸　隆久	国立東京工業高等 専門学校 電子工学科	助　手	アメリカ真空学会第 48 回国際シンポジウム American Vacuum Society 48th International Symposium 主催：アメリカ真空学会 (American Vacuum Society) 開催地：アメリカ合衆国/サンフランシスコ 出張期間：平成 13 年 10 月 29 日～11 月 2 日

佐々木浩一	名古屋大学大学院 工学研究科 電子工学専攻	助教授	アメリカ真空学会第 48 回国際シンポジウム American Vacuum Society 48th International Symposium 主催：アメリカ真空学会 (American Vacuum Society) 開催地：アメリカ合衆国/サンフランシスコ 出張期間：平成 13 年 10 月 28 日～11 月 4 日
嶋　　敏之	東北大学 金属材料研究所	助　手	インターマグ国際会議ヨーロッパ、2002 Intermag Europe 2002 主催：IEEE Magnetic Society (アメリカ電気学会、磁気協会) 開催地：オランダ/アムステルダム 出張期間：平成 14 年 4 月 28 日～5 月 2 日
高口　　豊	信州大学 繊維学部 素材開発化学科	助　手	第 20 回有機イオウ化学国際会議 20th International Symposium on the Organic Chemistry of Sulfur 主催：アリゾナ大学 開催地：アメリカ合衆国/アリゾナ 出張期間：平成 14 年 7 月 14 日～7 月 19 日
田中　一義	京都大学大学院 工学研究科 分子工学専攻	教　授	米国化学工学会(AIChE)2001 年度年次大会 American Institute of Chemical Engineers (AIChE)2001 Annual Meeting 主催：米国化学工学会 開催地：アメリカ合衆国/ネバダ州 出張期間：平成 13 年 11 月 4 日～11 月 9 日
手塚　育志	東京工業大学大学院 理工学研究科 有機・高分子物質専攻	助教授	第 7 回環太平洋高分子国際会議 7th Pacific Polymer Conference 主催：The Pacific Polymer Federation Polymer Society of Mexico 開催地：メキシコ/Oaxaca City 出張期間：平成 13 年 12 月 3 日～12 月 7 日
朴　　大出	物質・材料研究機構 物質研究所 電子材料グループ	研究員	材料週間 2001 Material Week 2001 主催：International Congress on Advanced Materials, Their Processes and Applications 実行委員会 開催地：ドイツ/ミュンヘン 出張期間：平成 13 年 10 月 1 日～10 月 4 日
平尾　　明	東京工業大学大学院 理工学研究科 有機・高分子物質専攻	教　授	IUPAC2001 イオン重合に関する国際シンポジウム IUPAC2001, International Symposium on Ionic Polymerization 主催：International Union of Pure and Applied Chemistry(IUPAC) Greek Polymer Society Greek Chemists Association

			開催地：ギリシャ/クレタ 出張期間：平成 13 年 10 月 22 日～10 月 26 日
吉田　　智	滋賀県立大学 工学部 材料科学科	助　手	先端ガラス材料の流動性と破壊に関する討論会 Flow and Fracture in Advanced Glasses 主催：レンヌ大学機械工学科 応用力学研究室 開催地：フランス/レンヌ 出張期間：平成 13 年 10 月 21 日～10 月 25 日

平成 14 年度　国際研究集会出張参加助成（4 名、総額 65 万円）

＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　集　会・出　張　期　間
大垣　　武	物質・材料研究機構 物質研究所 電子セラミックス グループ	特　別 研究員	MRS 秋季会議 2002 MRS Fall Meeting 主催：Materials Research Society 開催地：アメリカ合衆国/ボストン 出張期間：平成 14 年 12 月 2 日～12 月 6 日
加藤　宏朗	東北大学大学院 工学研究科 応用物理学専攻	助教授	国際磁気会議 International Conference on Magnetism 主催：International Union for Pure and Applied Physics (純粋及び応用物理国際連合) 開催地：イタリア/ローマ 出張期間：平成 15 年 7 月 27 日～8 月 1 日
齋藤　賢一	関西大学 工学部 機械工学科	専　任 講　師	第 6 回塑性工学とその応用に関するアジア・太平洋国際会議(AEPA2002) The Sixth Asia-Pacific Symposium on Engineering Plasticity and Its Applications (AEPA 2002) 主催：The AEPA Int. Steering Committee 開催地：オーストラリア/シドニー 出張期間：平成 14 年 12 月 2 日～12 月 6 日
島田　邦雄	秋田県立大学 システム科学技術学部 機械知能システム学科	助教授	SPIE のスマート材料、ナノとマイクロのスマートシステムに関する国際シンポジウム SPIE's International Symposium on Smart Materials, Nano-and Micro-Smart Systems 開催地：オーストラリア/メルボルン 出張期間：平成 14 年 12 月 2 日～12 月 4 日

平成 15 年度　国際研究集会出張参加助成（5 名、総額 73 万円）

＜所属機関、職名は申請時のもの＞

氏名（50 音順）	所　属　機　関	職　名	研　究　集　会・出　張　期　間
岩森　　暁	金沢大学 工学部 人間・機械工学科	助教授	薄膜の接着に関する国際シンポジウム International Symposium on Adhesion Aspects of Thin Films 主催：MST Conference, LLC 開催地：アメリカ合衆国/オーランド 出張期間：平成 15 年 12 月 8 日～12 月 10 日
押鐘　　寧	大阪大学大学院 工学研究科 精密科学専攻	助　手	第 50 回アメリカ真空学会国際シンポジウム＆展示会 AVS 50th International Symposium and Exhibition 主催：アメリカ真空学会 (The AVS Science and Technology Society) 開催地：アメリカ合衆国/ボルチモア 出張期間：平成 15 年 11 月 2 日～11 月 7 日
田中　敬二	九州大学大学院 工学研究院 応用化学部門	助　手	レオロジー学会　第 75 回年次大会 The Society of Rheology, 75th Annual Meeting 主催：アメリカレオロジー学会 開催地：アメリカ合衆国/ピッツバーグ 出張期間：平成 15 年 10 月 12 日～10 月 16 日
松葉　　豪	京都大学 化学研究所	講　師	第 228 回アメリカ化学会 228th American Chemical Society National Meeting 主催：アメリカ化学会 (American Chemical Society) 開催地：アメリカ合衆国/フィラデルフィア 出張期間：平成 16 年 8 月 22 日～8 月 26 日
水本　将之	長崎大学 工学部 材料工学科	助　手	第 8 回アジア鋳物会議 8th Asian Foundry Congress 主催：Thai Foundymen's Society 開催地：タイ/バンコク 出張期間：平成 15 年 10 月 17 日～10 月 19 日

＜平成 16 年度から休止中＞

歴年の申請件数及び採択件数

	研究助成		研究会リーダー助成	
年　　度	申請件数	採択件数	申請件数	採択件数
平成　元年（1989）	50	15	2	2
平成　2 年（1990）	83	25	4	3
平成　3 年（1991）	91	29	8	6
平成　4 年（1992）	140	23	5	4
平成　5 年（1993）	162	20	4	4
平成　6 年（1994）	177	20	3	2
平成　7 年（1995）	180	20	2	2
平成　8 年（1996）	152	18	8	5
平成　9 年（1997）	141	22	6	5
平成 10 年（1998）	127	20	6	5
平成 11 年（1999）	103	17	8	5
平成 12 年（2000）	84	18	9	8
平成 13 年（2001）	130	18	5	2
平成 14 年（2002）	87	12	9	5
平成 15 年（2003）	120	14	3	3
平成 16 年（2004）	149	12	2	1
平成 17 年（2005）	147	12	休止	休止
平成 18 年（2006）	126	12	休止	休止
平成 19 年（2007）	104	16	1	1
平成 20 年（2008）	134	15	5	3
合　　計	2,487	358	90	66

＊　研究助成金の総計：約 380,000,000 円

＊　研究会リーダー助成金の総計：約 39,000,000 円

	海外研究調査出張 参加助成		国際研究集会出張 参加助成	
年　　度	申請件数	採択件数	申請件数	採択件数
昭和 63 年（1988）			4	4
平成　元年（1989）	3	2	16	13
平成　2 年（1990）	1	1	22	18
平成　3 年（1991）	1	0	22	16
平成　4 年（1992）	2	0	44	16
平成　5 年（1993）	5	1	35	16
平成　6 年（1994）	3	1	40	17
平成　7 年（1995）	0	0	54	18
平成　8 年（1996）	2	1	27	15
平成　9 年（1997）	2	1	31	15
平成 10 年（1998）	2	1	20	16
平成 11 年（1999）	休止	休止	30	19
平成 12 年（2000）	休止	休止	13	8
平成 13 年（2001）	休止	休止	19	9
平成 14 年（2002）	休止	休止	6	4
平成 15 年（2003）	休止	休止	7	5
平成 16 年（2004）	休止	休止	休止	休止
平成 17 年（2005）	休止	休止	休止	休止
平成 18 年（2006）	休止	休止	休止	休止
平成 19 年（2007）	休止	休止	休止	休止
平成 20 年（2008）	休止	休止	休止	休止
合　　計	21	8	390	209

＊　海外研究調査出張参加助成金の総計：約 2,7000,000 円

＊　国際研究集会出張参加助成金の総計：約 52,200,000 円

創立 20 周年記念シンポジウム開催

◇ 開催年月日：平成 21 年 11 月 13 日（金）　午後 1 時～午後 5 時

◇ 場　　所：メルパルク大阪「ソレイユ」（４F）（大阪市淀川区宮原４－２－１）

◇ シンポジウム主題：「明日を拓く機能材料」

◇ 式　次　第

主催者挨拶　作花　濟夫　理　事　長

◇ 講師と演題

基調講演　◇茅　幸二氏（本財団理事、独立行政法人　理化学研究所次世代スーパーコンピュータ開発実施本部副本部長）
「ナノテクノロジーからマイクロテクノロジーへ」
司　　会　◆池田重良氏（本財団顧問、大阪大学名誉教授）

招待講演　◇細野秀雄氏（東京工業大学フロンティア研究センター&応用セラミックス研究所教授）
「透明酸化物半導体の研究から開けつつある新領域と応用」
司　　会　◆新原晧一氏（本財団評議員・選考委員、長岡技術科学大学学長）

招待講演　◇平尾一之氏（京都大学大学院工学研究科教授）
「光機能ナノガラスが切り開くフォトニックネットワークの未来」
司　　会　◆木村茂行氏（本財団評議員、社団法人未踏科学技術協会理事長）

招待講演　◇野崎京子氏（東京大学大学院工学系研究科教授）
「均一系触媒を用いる極性モノマーの精密重合」
司　　会　◆山本雅英氏（本財団理事、京都大学名誉教授）

招待講演　◇原田明氏（本財団選考委員、大阪大学大学院理学研究科教授）
「分子の自己組織化による超分子構造の構築とその機能化」
司　　会　◆小田雅司氏（本財団評議員、大阪大学名誉教授）

創立 20 周年記念懇親会開催

◇　開催年月日：平成 21 年 11 月 13 日（金）　　午後 6 時～午後 8 時

◇　場　　所：メルパルク大阪「カナーレ」（５F）（大阪市淀川区宮原４－２－１）

編集後記

先人の様々な願いや思いを込めて設立された本財団は、この度、創立 20 周年を迎えました。ここまで歴史を重ねることができましたことは、偏に主務官庁である文部科学省（旧科学技術庁も含む）はじめ本財団役員、評議員、選考委員はもとより、多くの大学、関係研究機関、寄附者、関係者の方々のご理解とご協力の賜物があったからこそ、と心から感謝を申しあげる次第でございます。

これを機会に、心を新たにして本財団の目的である、高度機能性材料に関連する科学技術分野における研究助成等を行うという、他に類例を見ない独自性を発揮させてまいりたい、と気を引き締めておるところでございます。

ただ、現下の経済環境は、世界的な金融不安、経済不安が深刻さを増しており、回復までにはかなりの時間を要するものと予測されております。本財団におきましては、こうした不安定な環境の中、限りある財源をいかに効率よく運用し、安定した運用収入を確保して最大限の公益目的助成事業を行うか、という命題を抱えて、同時に目下の公益法人制度改革に臨もうとしております。

中国の俚諺にある「前事不忘　後事之師」を心に刻み、本財団関係者一同、努力を重ねてまいる所存でございます。今後とも、関係各位の更なるご理解とご協力をお願い申しあげます。

財団創立２０周年記念準備委員会

泉科学技術振興財団 創立２０周年記念
財団の運営と事業活動（平成１１年～平成２０年）

平成２１年１１月１３日　発行

発　行　財団法人 泉科学技術振興財団
〒531-0072 大阪市北区豊崎３丁目１０番２号 I&F 梅田１００４号
TEL（０６）６３７３－１８１１ FAX（０６）６２９２－０８９１

印刷所　繁栄舎印刷株式会社
〒530-0044 大阪市北区東天満１丁目12番２号
TEL（０６）６３５１－７０２８ FAX（０６）６３５２－６７６５

本財団は、高度機能性材料に関連する

科学技術分野における

研究助成等を行うことを目的にしております。

財団法人 泉科学技術振興財団
〒531-0072 大阪市北区豊崎3丁目10番2号
I&F梅田1004号
IZUMI SCIENCE AND TECHNOLOGY FOUNDATION
TEL.06-6373-1811 FAX.06-6292-0891
財団ホームページ：http://www.izumi-zaidan.jp/
財団e-mail ：info@izumi-zaidan.jp